

ひかりのこつうしん No.3



おはよう！



しゅりけん見て！

ひかりの子幼稚園

2021年6月

1か月に渡るクラス懇談会が終了しました。オンラインの形をとらせていただきましたが、たくさんの保護者の皆様に参加して下さいましたこと、本当にありがとうございました。

1学期のクラスの様子を、写真や動画を交えてクラス担任が30分ほどお話し、また若槻副園長からもクラス担任とは違った視点でクラスの様子を紹介いたしました。

その後保護者の皆さまの自己紹介と感想の時間を持ちました。

【保護者の感想の一部を抜粋して紹介させていただきます】

○片付けや食べ物の好き嫌い、身支度など家ではできていないと思うことでも、幼稚園ではやっている姿、楽しんでいる笑顔を見て安心した。集団の力ってあるのだと思った。(年少組)



ロッカー整理

○「年少組が大きい子と接する意味ってあるのかな？」
とっていたけれど、年長との交流(給食準備お手伝い、園内巡り、森の遊具案内)の様子や子どもたちの表情を見て、優しい気持ちや、あこがれが育つことを知り感動した。(年少組)



○「zoom ってすごい！」ただただ感動！自分の子どもだけでなく、ほかの子どもの様子も画面を通して共有できたことに感動して、泣いてしまった。(年少組)

○「歯磨き指導」の日、歯科衛生士さんが「3時までおやつは我慢。おやつはだらだら食べると虫歯になる！」と聞いてきた。「3時までおやつを我慢したいから、時計の見方教えて！」と子どもに頼まれた。親が興味や関心をできるだけ上げなきゃと思っていたが、園から刺激をたくさんもらって帰ってきている。親は寄り添えばいいのだと思った。(年少組)

○ラブレターをもらったことがきっかけで、返事を書きたくて、一生懸命ひらがなを覚えた。

子どもは「きっかけ」があって興味を持つ。

教え込むこととは違うことに気がついた。(年中組)



お返事書きたい！

○休みの日でも「幼稚園に行きたい」という我が子(年中組)

○お友達が自由遊びの時に作った素敵な作品を交渉してレンタルして持ち帰る。「これすごいやろ！○○ちゃんが作ってんで！」と帰りの遅いお父さんを待ち自慢して披露する。自分のことのようにお友達が大好きで大事に思っている。園と家庭がつながっている。(年中組)

○靴が3足あっても足りないくらい泥んこ遊びをしてくる。
でもそれだけ遊んだ勲章で誇らしい気分(年中組)



連れて行ってあげる

○上の子の時にはできていた行事がなくなり、裸足でどろんこ親の方がショックを受けている。コロナで仕方がないとも思うが、コロナだからこそできる違う体験もいっぱい楽しませてもらっていることを知ることができてよかった。(年中)



ほら見て！(むくろじあわあわ)

○園でしてきた工作遊びの続きを家でも黙々としている。好きなことに出会えてよかった。(年少組)

○お気に入りのマスクを家に忘れたことに門で気が付いて、涙でお部屋に上がれない我が子。それに気づいたクラスメート。誰一人通り過ぎず、立ち止まって駆け寄ってきてくれ、声をかけてくれ立ち直ることができた。困った人を見過ごさない、困っている人を助ける優しさや絆は、担任の先生の(強制や指示命令ではない)あたたかい一人ひとりを大切にする声かけの積み重ねがあるからだ、今日繋がった。(年長組)



大丈夫だよ

○「縦割り交流で、下の子を大切にする年長組さん」って今までクラスだよりなどで読んだことがあったけど、我が子の姿には繋がらなかった
今日実際に写真や動画を見て「うちの子にもこういう気持ちが育っているのだ」と驚きとともに感動した。(年長組)

○こだわりの強かった我が子が年長組になって「お兄ちゃんになろう」としている。大勢の前ですることが恥ずかしかったことも、少しずつできるようになってきた。成長を感じ嬉しく思う。(年長組)

○こうさぎ組の時泣きながら登園していた我が子が、
今では「こひつじ組は楽しいことはいっぱいやで！」と
こうさぎ組の下の子に話している。(年長組)



1針1針丁寧に



ぬいぐるみ

○クラスで取り組んでいる「水族館ごっこ」から魚一色の毎日。
幼稚園での遊びの世界を家でも楽しんでいる。
一人遊びの多かった子が、遊びを通してクラスの活動に積極的に参加できるようになってきた。(年長組)



水族館



街づくり

○先生が一人ひとりの興味、関心を受け止めて、クラス全体の活動に広がっていることに感動した。労を惜まず好奇心を伸ばしてくれる先生の姿勢ありがたい。安心して幼稚園に通わせている。(年長組)



森の委員会

○卒園した小学生の兄姉が「いいなあ。そんなに遊べて・・・」と言う。(年長組)

○今まで人の前に出ることをためらう子が「森の委員会」に立候補したことを聞いてびっくりした。(年長組)

○いきなり自宅の食事テーブルを拭き出し驚いた。端から拭いて中央にごみを集める。母は教えていない。園で教えてもらったことを家でも責任を持ってやろうとするようになった。(年長組)

○「これはシルフでは流れなくて、子どもだけに言っていることやから、今から言うで、聞いといてや！」とバスを降りた途端、明日ジャガイモ掘りである、記名したスーパー袋の話を一気にする子ども(年長組)



じゃがいも掘り

○クラスで流行っていることに今関心がなくても大丈夫。見ているだけの参加もある。種はたくさんまかれている。いつか芽が出るのが楽しみ(年長組)



色水遊び

4月からの園生活での成長をお伝えし、またご家庭でのお子さんの様子を知ることができる貴重な時間を持たせていただきました。どのクラスでも感じたことですが、保護者の皆様が園の教育活動に関心を持って頂き、理解を表してくださっていることを実感しました。心より感謝いたします。ありがとうございました。

先日「レジリエンス～心の強さってどう育てる？」のオンライン研修会で、乳幼児教育研究家の井桁洋子先生が言うておられたことですが、「カチカチではねのけてしまう心ではなく、柔らかく、しなやかなことが心の強さです。厳しさだけでは強い心は育ちません。」「うまくいかないとき～自分を応援する気持ち、内側から湧き上がる、よりよく生きたいと思う気持ち」は「自分をわかろうとしてくれる親、大人、教師の幼児期のあたたかいかわり」が、レジリエンス(逆境から立ち直る力)を育てるのだと言われたことが、とても心に残りました。私たち保育者は子どものありのままの姿を受け止め、理解し、子どもたちの良き隣人でありたいと願っています。 園長 松本直子

* 7/7 (水)の鈴木先生の教育講演会はお申込みされていない方も、当日参加も可能です。パスワードは後日シルフでお知らせいたします。